

平成 28 年度第 2 回函館市生活交通協議会会議録	
開催日時	平成 28 年 9 月 30 日（金） 10 時 00 分～11 時 30 分
開催場所	企業局 4 階大会議室
議 題	(1) 函館市関係バス路線の再編について (2) 地域公共交通再編事業について (3) その他
出席者	協議会委員 奥平委員，森委員，川内委員，滝野澤委員，武下委員，佐々木委員， 富樫委員，杉澤委員，矢吹委員，塚原委員，縁蒔委員， 横田委員（一般社団法人函館地区ハイヤー協会 専務理事 辻廣氏 代理出席）， 西海委員（北海道渡島総合振興局地域政策課 主査 三浦氏 代理出席）， 青柳委員（北海道渡島総合振興局函館建設管理部事業室道路課 主査 早坂氏 代理出席）， 種田委員，渡邊委員，川村委員，齋藤委員，内藤委員 (計 19 名) ワーキンググループ委員 金岩委員，廣瀬委員，宿村委員 (計 3 名) 随行者 函館バス株式会社 内沢バス事業部長，大川管理課係長 函館市都市建設部都市計画課 春山主査 (計 3 名) 報道関係 北海道新聞社，函館新聞社 (計 2 社) 傍聴者 (計 1 名)
欠席者	協議会委員 木村委員，大橋委員，鈴木委員，畑山委員，工藤委員，伊藤委員， 桜井委員，上野山委員 (計 8 名)
事務局の出席者の職氏名	企画部計画推進室長 田畑 聡文 企画部計画推進室政策推進課主査 江良 規生 企画部計画推進室政策推進課主事 信田 泰子

1 開 会 【事務局／函館市企画部計画推進室政策推進課：信田主事】

2 議 題

(1) 函館市関係バス路線の再編について

【奥平会長】

- ・ 議題(1)の「函館市関係バス路線の再編について」を、先に事務局から、本件をこの協議会の協議事項としている理由等について説明いただき、その後、資料に基づき、函館バスから説明願いたい。

【事務局／企画部計画推進室政策推進課：江良主査】

- ・ 当協議会は、市内におけるバス生活路線の確保方策等について検討するために設置しているものであり、設置要綱第2条では、協議事項として「函館市内におけるバス生活路線の確保方策やサービスの充実に関すること」と規定されている。
- ・ 路線の見直しに関しては、事業者である函館バスが毎年4月と11月に実施しており、中でも、市民生活への影響が大きいと考えられる路線の廃止や新設、半分以上の減便、大幅な経路変更、運賃の見直しといった事項に関しては、本協議会で事前に協議を行うこととしている。
- ・ また、均一運賃の設定や既に均一運賃を設定している路線の見直しについても、協議会の承認事項となることから、本協議会にお諮りすることとしている。
- ・ なお、本件以外の軽微な見直しに関しては、協議を要しないこととしているので、今回の案件には含まれていない。

【金岩委員】

(資料1に基づき説明)

- ・ 平成28年11月1日から実施する、函館市関係バス路線の再編について、説明する。

[承認事項]

- ・ ①46系統・64系統(新設・均一運賃)

新設の循環路線である。

共愛会病院正門前を起点とし、先にテーオーデパート・五稜郭方面を經由するものを64系統、逆に松川町・宮前町方面を經由するものを46系統とし、それぞれ4循環ずつ、計8循環の運行で、一循環13.6kmである。

この路線は、既存のバス路線が通っていない道路(富岡・大川・本通・花園)を運行し、計19本のバス停を新たに設置すること、通勤・通学時間帯である早朝や夕方には運行していないこと、210円の均一運賃とし、定期

券以外の全ての乗車券を使用可能としている。

この系統は、平成26年11月にバスパという類似系統を廃止したが、廃止後1年が経過しても、通院利用者からの根強い復活要請の声があったため、地域と協議し、旧系統を実現可能な運行回数・運行時間に見直したうえで、新設するものである。

・②34系統（経路変更・均一運賃）

この路線は、現在27.2kmの系統キロで1日5往復を運行しており、往路は日吉営業所前～函館大学前、復路は函館大学前～日吉営業所前である。見直し後は、日吉営業所からフレスポ戸倉までの運行経路は一緒に、戸倉中学校の坂を上ってからは、函館大学前・見晴団地・香雪園・高丘町・上野町・杉本新聞店前・戸倉ヶ丘団地入口を回り、日吉営業所に戻る循環バスとなる。

この見直しにより、系統キロが1回当たり（現在の1往復に相当）4.5km減少、1日当たり合計22.5km減少し、1日当たりのバスの運行時間も短縮となることから、バス事業者にとっては効率化が図られるとともに、廃止するバス停がないため、利用者へのサービスレベルは落ちない内容となっている。

バスの運行を効率化し経費削減した部分を、バス料金を均一運賃にするサービスにあて、利用者の利便性の向上を図るものである。

・③9-J系統（バス停の追加・均一運賃）

この路線は、平成27年4月に、路線バスとして運行開始している路線。現在は往路7.9km、復路7.3kmで、平日3往復、土日祝2往復を運行しているもの。今回、新たに、歴史的に由緒のある『四稜郭』バス停を路線上に追加し、一人でも多くの利用者を獲得したいと考えている。

・④3系統（系統の廃止）

3系統のうち、市役所前～日吉営業所前を廃止するもの。これに伴い、ほぼ同じ経路を運行する31系統を増便することで、総体的に利用実態に合った運行形態へ見直し、効率化を図るものである。

・⑤下海岸線（減便）

路線バスに乗り込み、利用者への聞き取りを実施。恵山・楳法華・戸井地区に係る路線について総体的に見直しを図るもの。減便する一方、要望のある新たな運行時間を設定し、利便性向上を図るものである。

・⑥79系統（減便）

朝の通学時間帯に20分間隔で2便運行している便について、利用者の減少に伴い、1便で対応可能なため、減便し、効率化を図るものである。

・ ⑦鉄山（減便）

減便対象便の利用はほとんどなく，函館バスセンター～旭岡団地間は59系統で，旭岡団地～五稜郭間は112系統で振替可能である。

[参考]

・ ⑧空港五稜郭快速線（新設）

観光の強化のため，函館空港と五稜郭方面を結ぶ快速線を新設するので参考までにお知らせする。

現在運行する，函館空港と五稜郭を結ぶ「とびっこ」は，一部函館空港から瀬戸川町を経由する便があり，運行時間が長時間に渡るが，新設系統は，東京の羽田便と接続させ，停車するバス停も主要停留所のみとし，所要時間を短くし，空港利用者の利便性向上を図るものである。

この他，協議会案件にかからない内容での時刻変更や，便数の多い便については，間引く形での減便を予定している。いずれも前後便で対応が可能であり，利用者に極端なご不便をお掛けするものではないと判断している。

【奥平会長】

- ・ ただいまの説明に対し，質問等はないか。

<質 疑>

【武下委員】

- ・ 34系統について，地域住民の利便性を考えて改善したのは良いと思う。
- ・ 資料の図面が古い。例えば11ページの路線図では「函館市営熱帯植物園」と記載されているが，正式には「函館市熱帯植物園」であるので，資料を作るときに最新の図面に路線図を落とすと誤解が生じなくてよいのではないか。細かい話ではあるが。

【金岩委員】

- ・ 町会等で周知する際には，新しい図面を使用したい。

【奥平会長】

- ・ よろしくお願ひしたい。他に何かあるか。

【佐々木委員】

- ・ たまたま2週間ほど車を使わない生活をして，久しぶりにバスを使った。系統と終点の表示はあるものの，路線図の表示されていないバス停がかなりあり，バスに乗ろうと思っても，そのバスが目的地の近くに行くかどうか，バス停に行っただけでは全く分からなく，不安に思うことが多々あった。

- ・ 1箇所と同じバス停がいくつかあるところがあり、同じバス停名でも乗る場所・降りる場所がどこか、そのバス停からは情報が得られず、スマートフォンで調べてもバス路線や運賃が分からなかったため、函館バスに問い合わせないといけない状況であった。
- ・ これからバスのシステムが変わっていくにあたり、初めて来られた方でもわかるような表示をしないとバス利用者は増えないのではないか。
- ・ 想像以上にバスの便数が減っており、バスで移動するには前もって時間に余裕をもって出かけないと目的の場所・時間に到着できないということを久しぶりに体験した。

【奥平会長】

- ・ 本件には直接関わらない内容かとは思いますが、サービス向上という点について函館バスから何かあるか。

【金岩委員】

- ・ バスの系統図については徐々に改善していきたい。
- ・ バスの路線や観光客への案内は、スマートフォンでは、「駅すばあと」や「ナビタイム」、「ジョルダン」といったサイトで乗換の経路や運賃が分かるようになってきているので、周知の改善を図りたい。
- ・ ゴールデンウィークやシルバーウィークなどの繁忙期においては、函館駅前では職員を張り付かせて利用の周知を図っているが、観光客だけではなく、函館市民の方にも利用してほしいので、今後も町内会などにご相談させてもらい、引き続きPRを行っていきたい。
- ・ また、生活交通協議会での意見や議論なども参考にし、少しずつ改善していきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【事務局／企画部計画推進室政策推進課：江良主査】

- ・ 協議会において、これまで議論してきたバス路線網の再編に向けた検討のなかで、委員の皆さまに課題として共有されてきたことについて、佐々木委員ご自身が改めて実感されたことと思う。
- ・ 引き続き、課題解決に向け、ご協力をお願いしたい。

【佐々木委員】

- ・ 高齢の方は外出時には、バスや電車を利用している方が多いと思う。
- ・ 電車はバスと違い、目的地までかかる時間が正確なので、沿線に住む方はバスよりも電車を利用する方が多いと聞く。また、バスで移動する方もバス料金が高く、自分の通う病院で運行している無料バスをなるべく使うようにしているという話も実際に聞いている。
- ・ 日中の平日の時間帯のバスの本数が少なくて本当に驚いた。
- ・ 私でさえ、バスの移動にこれほど苦勞するなら、高齢の方はさぞかしもっ

と大変な思いをしているのではないか。高齢の方の利用をもっと促していきたいなら、そういう方たちの意見をもっと聞いて反映させていくべきであるとしみじみ思ったので、ぜひよろしくお願ひしたい。

【金岩委員】

- ・ まさしくその通りで、①の新設する便は、過去に廃止した経緯があったが、高齢者の方の声により改めて運行を開始するものである。このように要望を聞き、見直すところは見直したいと思っている。

【富樫委員】

- ・ 函館駅から乗り、五稜郭公園入口のバス停で降りた観光客からよく聞かれるのが、バス停から五稜郭タワーへの案内看板がないということである。ここで協議する内容ではないと思うが、その必要性についていつも感じている。
- ・ また、五稜郭タワー前のバス停には上屋がないため、雨天の時に観光客が困った様子でいるのを何回も見かけているので、見直した方が良いのではないかと思う。

【事務局／企画部計画推進室政策推進課：江良主査】

- ・ 道新向かいのバス停で降りて五稜郭公園に向かう道案内については、観光部に対して申し伝えるとともに、バスの方でも何ができるか考えていきたい。

【奥平会長】

- ・ この話は、観光アドバイザー会議でもいずれ議題に上げたい。
- ・ JR五稜郭駅では、五稜郭タワーに向かう観光客が五稜郭と間違えて降りることが非常に多かったが、新幹線開業後は、五稜郭駅で降りずに函館駅で乗換えるように、とのアナウンスが入るようになった。このように、電車やバスのアナウンスを変える方法もあるのではないかと思ったので、ご検討いただければと思う。

【事務局／企画部計画推進室政策推進課：江良主査】

- ・ 上屋については、函館市が策定した地域公共交通網形成計画において、バス路線再編に係る利用環境の整備の一環として、優先順位をつけながら検討していきたいと考えている。引き続きご意見があればお聞かせ願ひたい。

【奥平会長】

- ・ 他になければ、承認行為に移りたい。
- ・ 本件については、承認するということがよろしいか。

<一同了承>

(2) 地域公共交通再編事業について

【奥平会長】

- ・ では次の議題に移る。議題（2）の「地域公共交通再編事業について」、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局／企画部計画推進室政策推進課：江良主査】

- ・ 本日資料は用意していないが、検討を進めているバス路線網の再編の状況について説明する。現在、ワーキンググループ会議を中心に路線再編の協議を進めているところで、7月25日と9月26日の2回、ワーキンググループ会議を開催した。
- ・ 今後もワーキンググループ会議に諮りながらバス事業者との協議を進めていき、協議が整い次第、協議会に諮りたいと考えている。

【奥平会長】

- ・ ただいまの事務局からの説明に関し、質問はないか。
- ・ バス路線網の再編は非常に複雑な話なので、ワーキンググループ会議においてしっかり検討している。追って、この本協議会に案を上程していきたいと考えている。ご理解いただければと思う。

<質 疑>

【富樫委員】

- ・ ワーキンググループ会議への注文である。バスは普段同じ位の大きさのものが走っていると思うが。

【金岩委員】

- ・ バスの大きさには、大型・中型・小型の三種類ある。

【富樫委員】

- ・ 出勤や通学時間帯は大型が有効であると思う。これに対し、普段私が通院のために乗る10時のバスも大型のものが走っており、無駄だと思うので、中型にしてはどうか。座席がかなり空いており、乗降に時間がかかっている。今後、乗降しやすい中型車両の投入について検討してほしい。
- ・ 下海岸線の方では、小中学校の統廃合により、現在離れている小中学校の児童生徒の交通手段をどうするのかという問題があると思うので、ワーキンググループ会議の議題に、ぜひ児童生徒の交通問題について取り上げてほしいと思う。

【奥平会長】

- ・ 小中学校の統廃合の話は未確定な状況である。確定した段階で、協議会の議題になるかどうか判断することになると思う。

【金岩委員】

- ・ バス車両については、導入計画に従い更新を進めており、徐々に中型バスの割合を増やしていきたい。
- ・ バスの乗降時間については、バスや市電でのICカード利用が普及すれば乗降に係る時間が短縮されることになると思う。

(3) その他

【奥平会長】

- ・ 議題(3) その他について、資料に基づき、杉澤委員から説明をお願いしたい。

【杉澤委員】

(資料2に基づき説明)

- ・ 7月29日に国土交通省において地域公共交通優良団体表彰があり、今年度、陣川あさひ町会・函館バス・函館市の三団体が共同で表彰を受賞した。
- ・ 本表彰制度は地域公共交通に関する取組みが他地域において模範となるような顕著な功績のある団体を表彰することで優良事例の情報提供を図る目的で平成21年度から国土交通省において実施している。
- ・ Jバス本格運行となった後も利用者が増えており、既存で運行していた6-2系統の利用実態を見ても利用者が格段に増加しており、Jバスだけでなく、この取組自体が地域でバスを利用するという機運が醸成されたということで受賞に至ったものである。
- ・ 今回は陣川あさひ町会とそれをバックアップした函館市・函館バスの3者で受賞した初めてのケースである。
- ・ 参考に表彰状の文章を読み上げる。三者で協働し、実証実験として「陣川あさひ町会バス」を運行し、住民の要望に合わせた施策を講じ、路線バスとして本格運行を実現するとともに、地域にバス利用の気運を醸成し、需要の拡大を図るなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組まれました。その功績は誠に顕著であります。よってこれを表彰します。
- ・ 9月4日に北海道運輸局で公共交通のシンポジウムが行われ、その場でも陣川あさひ町会に講演をしていただくことになっている。全国から交通に関する方々が集まるシンポジウムである。この表彰をきっかけに優良取組事例として、今後も他地域の参考になっていただければと思う。

【奥平会長】

- ・ 大変嬉しいお話である。
- ・ 次回の協議会は12月下旬を予定している。日程が近くなったら改めて事務局からご案内する。
- ・ 他になければ、これで予定した議事を全て終了したので、進行を事務局にお渡しする。

4 開 会 【事務局／函館市企画部計画推進室政策推進課：信田主事】